

消

こんにちは！  
費生活相談室です 75

消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

出会い系サイトによる不当請求の相談が、全国的に増加傾向にあります。  
巧妙な手口で誘う不当請求にご注意ください。

**事例1**  
無料と書かれた古いサイトに個人情報を入力し登録したところ、出会い系サイトから複数のメールが届くようになった。「無料ポイントを使い果たしても、有料になった分は会ったときにお金を払う」と言ってくる異性を信じてメールを続け、数回にわたりクレジットカードでポイントを購入した。

その後、何度か会う約束をするものの、いつも直前になって相手に一方的な都合ができて会えず、お金を受け取ることができない。

出会い系サイトの不当請求

出会い系サイトによる不当請求の相談が、全国的に増加傾向にあります。  
巧妙な手口で誘う不当請求にご注意ください。

**事例2**  
無料の懸賞サイトに登録した。懸賞に当選したというメールが届き、手続きに必要と言われたため個人情報を提供し出会い系サイトに登録した。結局何ももらえなかったが、次々届いたメールを読むために有料のポイントが必要だということが後になってわかった。

**アドバイス**  
無料サイトには安易に近づかないで！  
「無料」につられて安易に個人情報を提供しない。  
さらに別の不当請求を受けることになりません。  
クレジットカード決済に要注意  
後払いのカード決済は、トラブルが起きたときに解決が困難な場合もあるため注意が必要です。

相談受付時間

毎週月～金曜日  
午前9時～正午・午後1時～4時

み

みんなで拓く人権文化 61

地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

こんにちは赤ちゃん・・・  
生まれた日がスタート

人権教育地区懇談会で「今でも部落差別はあるのですか」と題して「部落差別問題」を取り上げています。懇談会では、簡単な歴史的背景の説明により、部落差別はどのようにして始まったのか。また、ビデオ視聴により、今ではどのような形で差別が残っているのか。参加者全員が意見を出し合っただけでなく、意見交換の中に「いまさら『寝た子を起こさなくて済む』、数年後私たちがいなくなれば自然にこの問題は解決するよ」という意見がありました。《寝た子を起こす》・・・(せつかくおさまっている事をつついで、面倒なことにする)・・・この言葉は「部落差別問題」によく出てくる言葉です。はたして、このまま《寝た子を起こさない》ほうが良いのでしょうか。

明治四年に、被差別部落をなくすための解放令が出たから一五〇年もたとうとする現在、部落差別問題は解決されたとはいえません。「寝た子を起こす」ではなく、「正しく起こす」ために、部落問題の歴史をひもとくとき、正しく理解し、うわさ話や世間話に惑わされないよう、心の確立が大切ではないでしょうか。

その時その時代の政策のもとで、仕事の性質上、支配者や、周囲の人々から厳しく差別された人々。人として生まれながら、生まれた場所や仕事によって差別を受ける人々。これはあってはならない差別です。

《こんにちは赤ちゃん私がママよ・・・》赤ちゃんは周囲の人々から祝福されてこの世に生まれてきます。生まれた日が個々のスタートラインであり、生まれた場所が個々のふるさとです。その個々に関係のない過去の重荷を背負って人生を走って、どんなに重たく辛いことでしょうか。(人権教育推進員 安倍昌彦)

今月のサロンコンサート

「魅惑のフルーツアンサンブル」

月とき・ところ 8月29日(金)午後7時30分～8時40分  
文化ホール(入場無料)

月出演 島根大学フルーツアンサンブル  
島根大学教育学部でフルーツを専攻する学生・卒業生で構成するグループ。松江イングリッシュカーテンでの演奏や山陰フルーツ協会主催のフェスティバルに参加するなど、学校外でも積極的に活動を行う。今回は、5人のフルーツ奏者によるアンサンブルをクラシック中心にお届けします。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



お忘れなく！

国民健康保険税第2期  
市県民税第2期分の納  
期限は  
9月1日(月)です。

※便利な口座振替をご利用ください。

図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)

幼児から中学生、14匹の野ねすみ(？)家族の物語。絵本だが、文はやさしい英語の短文。早期英語教育に最適。

『The family of fourteen』  
Iwamura Kazuo

『夏ものがたり』  
野上暁

『夏梅雨明け、夏休み、海祭、さまざまな夏を描いた短編と詩。』

『バアちゃんと、とびっきりの三日間』  
三輪裕子:作  
山本祐司:絵

『本棚のスフィンクス』  
直井明

『石田衣良の白黒つけます!!』  
石田衣良

『石田衣良の白黒つけます!!』  
石田衣良

今月の新規・寄贈図書  
◆記念日(香納諒)◆のんびり山陰本線(行こう！)(野村正樹)◆月とメロン(丸谷才一)◆ロマンス(井上ひさし)◆あなたの余命教えます(幸田真音)◆とける、とろける(唯川恵)◆切れた鎖(田中慎弥)◆現代アメリカの経済政策と格差(坂井誠)◆観光立国ニッポン事始め(鈴木勝)◆ゼロの楽園(平野純)ほか計306冊

さがいみなと文化財巡り 53

浜かすり 4

弓ヶ浜の地に適した綿作は、江戸時代末期から明治にかけて全盛となり、綿は商品作物として木綿に織られ各地に移出されます。そして付加価値のより高い「浜かすり」の発展に向かっています。

その発展を支えたのが農家の女性たちで、夜なべ仕事で織られたものでした。当時の女性たちは農事や家事はもちろん、地引き網の曳き手もこなすなど農家の重要な労働力で、その忙しさや作業負担は健康を害するほどでした。

境港の民俗調査に明治・大正期の典型的な農家の様子を伝えています。

家の構えは、概ね南向きで田の字型の麦藁ぶき寄棟造り。オモテ、ザシキ、ナカノマ、チャノマは普段はムシロ敷きやゴザ敷き。盆や正月の時には畳敷きに取替える。

仕事着は手織りの木綿のアツシヤドウブクで、主食は麦と芋。芋は切芋や干芋・煮干芋として保存、麦を石臼でつき干芋の製粉を混ぜて食べていました。



糸紡ぎ

(市史編さん室 小瀬浩)

女性の農作業、特に綿作作業は概ね次のようでした。春、十八夜ごろに綿の種まき、草取り、夏の水撒き(二つの水撒きタゴを天秤で担ぎ、綿井戸と畝間を何回も往復する)、秋に実を採集して乾かし、夜なべ仕事で綿繰り。薄暗い行灯の下で糸にし、機織りした布を裁断して家族の襦袢・単衣・袴・綿入れ、羽織・ハンテン・布団を縫い、それを毎年洗って解き、糊付け縫い直し。

貧窮のなかで精一杯の生活がしのべれます。

倉吉緋研究家・福井貞子さんの著書「木綿口伝」に「たとえ一反の緋にも妻として、母としての愛情が、きめ細やかに織り込まれている。老女の人生は長く貧しかった。「家の封建的人間関係、農民であるがゆえの貧困。老女たちは汗を経糸とし、怨念を緯糸として、今は色褪せて、しかし美しいその緋を織り続けてきたのであった。」と記されています。浜緋の誕生は、まさにここにあったのです。